

備前市事務事業評価シート

(平成24年度事業)

事業の概要		事業開始年度		平成9年		根拠法令・例規等		加子浦歴史文化館設置条例		
総合計画	大項目	基本目標	03	地域文化と人が輝くまちづくり		問	担当課(室)	生涯学習課		
	中項目	基本施策	03	歴史と文化の輝くまちづくり			合	職・氏名	文化係長 石井 啓	
	小項目	施策	01	文化芸術の振興			先	電話	0869-64-1841	
事務事業名		03		加子浦歴史文化館管理運営事業		このシート作成に要した時間		5.0 時間		

事業の目的		Plan	
対象(誰・何に対して)	市内外を問わず、小学生・中学生・高校生・大学生等、また生涯学習をしようとする人。歴史研究者・郷土史研究者(愛好家)・文学研究者・観光客・資料寄託者・資料寄贈者。		
目的(何のために)	郷土に関する歴史・民俗・文芸資料の収集と保存につとめ、それらを後世に伝え、遺す。で収集した資料をもとに常設・企画展を行い、当館利用者の文化的向上と調査研究の一助となることを目的とする。		
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	当館の入館者のうち、市内の入館者はほとんどなく、ほとんどが観光客である。市の最東端に位置する立地条件ながら、市民の利用度を少しずつ高め、文化を発信する一拠点としての役割を果たしたい。		

事業の実績		Do	
目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	加子浦歴史文化館管理運営事業	資料の保管・管理	
		資料の収集(購入・寄贈)	
		常設展示の内容を充実させる	
		企画展の開催	
		文化講座の開催(茶会、ワークショップ等)	

決算額	事業費等		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
	事業費	直接事業費	千円	5,065	5,520	5,123
	必要人員	人員	千円	0.77人	0.78人	0.80人
	事業費	人員費	千円	5,984	6,221	6,323
	事業費	費計	千円	11,049	11,741	11,446
	財源	国庫支出金	千円			
		受益者負担	千円	483	424	473
		繰入金	千円			
		市債	千円			
		その他( )	千円			
	一般財源	千円	10,566	11,317	10,973	
	受益者負担比率	%	4.4%	3.6%	4.1%	
結果指標	結果指標名		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
	加子浦歴史文化館の一年間の入館者数		人			
	結果指標	量	人	3,359	2,586	2,879
	対前年	比	%	-	77.0%	111.3%
	活動	コスト	円	5,984,000	6,221,000	6,323,000
	単位当たり	コスト	円	1,781	2,406	2,196

事業の成果		Check				
成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値	
加子浦歴史文化館利用者数	目標値(A)	3250	3250	2900	2900	
	実績値(B)	3359	2586	2879	到達目標値	
	達成率(B/A)	103.35%	79.57%	99.28%	80%	
成果指標設定の考え方・式や説明						
目標入館者数を2800人とし、講座回数4回に参加する人をそれぞれ約20人と設定した。それに学習室の利用者があると仮定し、20人を加えた。						

事務事業の評価		該当する項目を から へ く 「コピー」して「貼り付け」してください		Check	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	必要性	市民ニーズ	妥当性評価	C
	市が実施するよう法令で義務づけられている 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない 事業の内容が一部の受益者に偏っている 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である 事業開始当初の目的から変化してきている 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある			妥当性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い	
効率性の評価	コスト	手段		効率性評価	C
	単位当たりコストは前年度と比較して改善している 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい 受益者負担率は適正である 受益者負担率を見直す余地がある サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている			効率性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い	
有効性の評価	目的達成度	市民参画度		有効性評価	C
	成果指標の設定は適切である 成果指標の到達目標値は達成できそうである 成果指標達成率は前年度と比較して向上している 成果指標達成率は80%未満となっている 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している			有効性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い	

進行年度(H25年度)の改革改善内容	
状況	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了
説明	震災や不況、また博物館ばなれの風潮が強くなったことから入館者数が激減した。企画展「清近から玉舟五代の技」がヒットし、入館者数は やや持ち直した。今後もよい企画を考えたい。

総合評価		Action	
当館利用者数は景気の低迷による観光客数の減少と運動している。地道に事業を続けるほか	総合評価	C	
	A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い		

平成26年度の方向性・取組目標		Action				
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
取組目標	当館利用者の増加をのぞむべく、内容をより深めていく努力を続けたい。					

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストを留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標を留意しながら